

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

第19回

地域交流バザー



天候にも恵まれ、
 今年もたくさんの方に
 ご来場いただきました！



できたて！ポップコーン



熱々でおいしい！焼きそば



ひんや〜り飲み物コーナー



好評の手作りの品コーナー

【2018年 夏号】

- | | | | |
|--------------------|-------|----------------------|-----|
| ◇巻頭文 | P 2 | ◇「それぞれ」～自閉症支援センターより～ | P 3 |
| ◇特集「新規利用者の受け入れ～現在」 | P 4・5 | ◇「Gグループ交流会報告」 | P 6 |
| ◇ヘルパー便り・ナウシカ便り | P 7 | ◇後援会のページ | P 8 |

輪 ～おやじの会から～

風の谷 評議員 鈴木秀美

私の所属する障がい者団体である「相模原市自閉症児・者親の会（相模原やまびこ会）」は、講演会、研修会、勉強会、作品展等諸々の活動を実施しておりますが、その活動の一つである「おやじの会」を紹介させていただきます。

「おやじの会」は文字通り男性だけでお酒を交え歓談する会です。平成16年8月に父親、中学校校長、やまびこ工房職員の4～5人の集まりからスタートしました。その後回数を重ね本年6月で72回目を迎えることになりました。また登録メンバーは100人を超え、ベテランの親父から新米の親父、施設職員、療育関係者、障がい福祉課職員、大学教授らがいます。

会場は参加者の集まりやすい町田の居酒屋で、費用は4,000円程度で3時間程の歓談となります。この会には「一人一言」なるルールがあり、参加者全員が自分の近況、最近考えていること、子どもの成長、育児の悩み等を開陳します。育児面での悩みに対しては先輩の父親の過去の経験に裏打ちされた適切なアドバイスや、施設職員の現場での実践から得られたアドバイスがあります。一日中、子どもと付き合っている母親の子どもに対する愛情は勿論大切ですが、社会で揉まれている親父達の話は育児の真っ只中にいる若い父親にとって、母親とは異なる視点から子どもに向き合うヒントとなっているようです。一方、やまびこ工房職員にとっては、母親と相談することが多く、父親の意見を聞く場が少ないため、貴重な時間となっているそうです。

「おやじの会」での話題は、自閉症に関するものだけではなく、趣味、スポーツ、旅行等々多岐にわたり、楽しくお酒を飲みながら歓談の輪が広がります。

参加者の居住地も相模原市のみならず、大和、厚木、海老名、横浜、川崎等広範囲です。また、他地域からの参加者が新たに、その地域での「おやじの会」を発足させることもあり、その地域で新たな参加者も加わり「おやじの会」の輪が広がっています。

やまびこ工房は、平成30年7月で開所20周年を迎えます。相模原やまびこ会の活動を通じて、人と人、輪と輪の結びつく機会を提供してきたことは、やまびこ工房のさらなる発展に寄与するものとなることでしょう。今後も自閉症者支援を広げ、かつ深めていくためにも、7月7日（土）の記念式典・祝賀会のご出席をお待ちしております。

社会福祉法人 風の谷 20周年記念式典及び祝賀会の開催

この節目の年を無事に迎えることが出来たのも、ひとえに皆様方のお陰と感謝の念に耐えません。当日は風の谷の事業に関係のある方々、あるいはご興味をお持ちの方のご出席を願い、にぎやかな会にする予定でございます。ぜひとも万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

□記念式典

日時 平成30年7月7日(土) 10:30～12:30(受付開始 10:00～)

記念講演 渡部匡隆先生(横浜国立大) 11:20～12:30(予定)

会場 あじさい会館 大ホール (相模原市中央区富士見 6-1-20)

□記念祝賀会

日時 平成30年7月7日(土) 13:00～ (受付開始 12:30～)

会場 けやき会館 大樹の間 (相模原市中央区富士見 6-6-23)

※記念式典と祝賀会と会場が異なります。あじさい会館からけやき会館の距離は約150メートルです。お車でのお越しの場合は、近隣有料駐車場をご利用ください。公共交通機関のご利用につきましては、ルートは多数ございます。ご不明な点は、お問い合わせください。

○お問い合わせ先 社会福祉法人 風の谷 電話 042-760-1033

それぞれ ～相模原自閉症支援センターより～

“再建”ではなく、“再生”。

昨年10月に『津久井やまゆり園再生基本構想』が発表されました。

それは、平成28年7月26日当時に入所されていた130名の方、一人、一人の意思決定支援を土台とした構想です。

7～8年前にもなりますが、やまびこ工房のスーパーバイザーである渡部匡隆先生（横浜国立大）のご指導の下、“意思を確認する”をテーマとして自閉症者支援を行ったことがあります。

口頭で答えて頂ける方には、質問票を見て頂きながら口頭で質問をして、好みや趣味を伺います。質問内容とは異なる返答が続いてしまったり、支援者も取り組みを意識し過ぎて堅苦しい質問をしてしまうせいか、いつもと異なる丁寧な口調で返答をされることもあり、普段接している支援者が質問してみても場面によって異なる返答をされることがわかりました。

発語がなく、文字理解が難しい方は絵カードを使って選んでもらい、好みや希望を訊く取り組みもしました。慣れないうちは、カードの絵自体は見ないで、指をさされることがあり、並べ方を変えてみると、別のカードを指さしするので、こちらが意図したようには振舞ってはくれないのですが、繰り返していくと、どうも嫌いなものは避けて、指さしはしているのではないか？という推測に至りました。普段から意思を確認しながら支援は行っているつもりですが、意識するとまた違った一面を知ることが出来ました。

平成29年3月31日に厚生労働省より「障害福祉サービスの利用等にあたっての意思決定支援ガイドラインについて」が示され、意思決定支援の定義が為されています。“自ら意思を決定することに困難を抱える障害者が、日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることができるように、可能な限り本人が自ら意思決定できるよう支援し、本人の意思の確認や意思及び選好を推定し、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合には、最後の手段として本人の最善の利益を検討するために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みをいう。”

津久井やまゆり園の除却工事が始まりました。平成33年度に完成する見通しとのことです。完成した時にそこに住むかどうかを決めるのは、他の誰かではなく、130名の、一人、一人、ご自身が決めることを原則としています。ただご自身のみで決めるのは、困難なため、チームで意思決定支援を行うこととなります。チームメンバーは、相談支援専門員、津久井やまゆり園支援担当職員、津久井園サービス管理責任者、市の障害福祉ケースワーカー、県共生社会推進課職員等で構成されます。住まいや日中活動の場を決める社会生活場面の意思決定支援のみでなく、食べたいものを食べたり、行きたいところに行く、日常生活場面での意思決定支援も重視し、進めていくこととなります。一朝一夕でできる支援ではなく、時間を掛けて丁寧に意思を確認する、それも個人ではなく、チームで、それが130チームあり、研修も行われている。構想が達成されるなら、意思を尊重した類を見ない取り組みとなります。

風の谷もチームに加わり、悲しみを新たに組みたいと思います。

（薬師丸）

新規利用者

受け入れ～現在

今年度から、やまびこ工房に1名、第二やまびこ工房に3名、新しい利用者が入られています。4名とも今年3月に支援学校を卒業されたばかりの方々です。支援者の学校訪問、在学中の施設実習、その後の面談を経て利用を開始されています。今回は、各事業所1名の受け入れ～現在までの様子をご紹介します。

やまびこ工房

Kさん

Kさんは特別支援学校を卒業し3月19日よりやまびこ工房の利用を開始されています。

Kさんは男性の方で自閉症の障がいをお持ちです。ご家庭では電車やトーマスのDVDを見るのが好きで、ドライブや散歩、電車乗りも好きな方です。在学中に学校への見学とやまびこ工房での実習を行い、通所されることになりました。学校から通所施設へと環境が大きく変化する生活の中で、Kさんがどうしたら安心して自分らしく通って頂けるか試行錯誤しながら考えています。

そんな場面や取り組みを少しご紹介させていただきます。

朝の通所時間は利用開始当初は10時で始めました。この時間は、玄関前が人や車の出入りの多い時間なので、自宅と通所への切り替え場面においてKさんは緊張や不安が強くなる様子でした。そこで、人の出入りが比較的少ない時間に通所時間を変更して、声かけは控えて手差しや写真カードを提示して次の行動に移れるように支援しました。併せて移動時には廊下にパーテーションを用意して刺激を少なくしています。

昼食について、実習中は写真カード等で食堂に誘いましたが食堂の中には入れませんでした。実習中の様子も踏まえて3月中は作業室のKさんのスペースで食事をして頂きました。少しずつ慣れてきた4月に食堂での食事を試みました。イメージが付きにくい食堂への不安が強いと考え、どんなところなのか、まずは食堂の中に入って見てもらう為に、ご飯のお替りの際に食堂に誘ってみることにしました。すると、スムーズに支援員と一緒に食堂に入ることが出来ました。数日間続けて、今度は写真カードや実際の食事を見てもらい食堂に誘ったところ食堂で食事をとることができました。その後も3日間食堂で食事をされていましたが、人の動きや音、話し声等Kさんには、まだ負担が大きい様子や表情が見られ、現在は作業室のKさんのスペースで召し上がっています。メニューについても、安心感が得られるように食感が苦手な豆腐や卵料理は、代替えのメニューに変更して提供する機会もつくっています。

散歩の活動では、工房の周りを一周15分程のコースを歩いていて一日毎に右回り、左回りと変えています。散歩のコースがKさんの中で固定されないで色々な場所を混乱なく歩けるように工夫をしています。

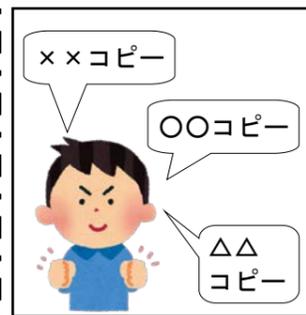
今、Kさんは大きな変化に戸惑いながらも頑張っている連続の日々だと思います。その気持ちを受け止めて、安心できる場になるようにKさんやご家族と一緒に考え、日々創意工夫し支援をしていきたいと思っています。

(畑山)

第二やまびこ工房

Hさん

Hさんは、3月に3日間の実習を行なった後、4月2日から利用を開始されています。実習中とは違う作業室、関わったことのない利用者もおり、利用開始当初は緊張されているようでしたが、現在では穏やかな様子で1日を過ごされています。そんなHさんとの出来事を1つご紹介したいと思います。



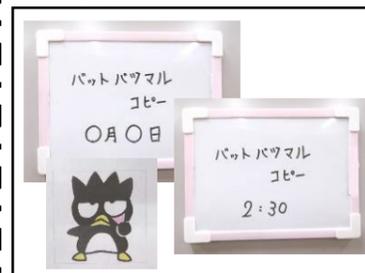
4月中旬、Hさんから「○○(アニメキャラ名)コピー」と初めて要望がありました。数分後、そのキャラクターのコピーをお渡しすると、今度は違うキャラクターのコピーを要望。2つ目の要望に対しては「お家でコピーします」と伝えましたが、納得できない様子で、不調時の声や行動が度々見られました。

翌日も「○○コピー」と同様の要望。今回は渡す時間を指定して紙に書き提示すると、その時間までは落ちついて過ごすことができましたが、コピーを受け取ると、昨日同様違うキャラクターのコピーを要望。今度は日付を記入して紙に書きましたが、

1つで止まらず2つ3つと…(日付は翌日、翌々日と1日1つになるように記入)。いくつ要望が出てくるのだろうか、A4用紙に書き出してみると、用紙いっぱい10個以上出てきました。

その翌日は、小さなホワイトボード(20cm×15cm)を使用。すると、コピー要望は3つでストップ。その中から1番を決めてもらい、翌日の日付を書いて本人スペースに掲示すると、帰宅まで安定して過ごすことができました。

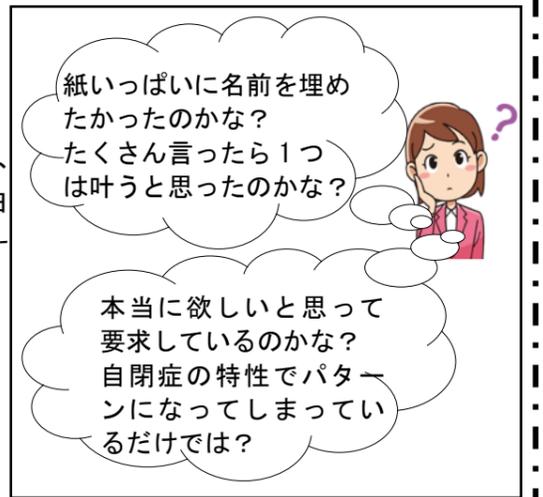
当日は日付部分を渡す時間に変更して掲示。すると、時間までコピーを待つことができ、その後のコピー要望も1つで止まり、不安定な様子も見られず、1日を過ごすことができました。

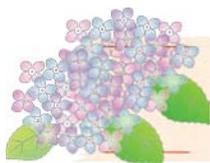


このやり取りを毎日行ない約3週間が経つと、同じキャラクター名が出てきたり、受け取り時間が遅れてきたりするようになりました。そして5月中旬頃、Hさんから「ないない」と言ってホワイトボードを片付けるよう支援員に渡し、その後より、コピーのやり取りがなくなりました。

Hさんと一緒に過ごすようになって早2カ月。上記のようなやり取りをしていく中で、Hさんは柔軟性が高い方であることが分かってきました。これまで自閉症の方を支援するにあたり、先の行動を予測し、生活しづらいパターンにならないよう、先回りする支援を心掛けてきましたが、Hさんとの関わりにおいては、Hさんの柔軟性を伸ばせるよう、先回りしすぎない支援をしていきたいと思っています。

(伊波)





Gグループ利用者交流会のご報告



第二やまびこ工場の別棟で活動しているGグループは発達障害の方を中心とした活動グループで、就労に向けて受注作業や自主製作品の作製に取り組んでいます。

1回の作業時間は短い方も30分、長い方だと2時間にもなり、作業の受注量は年々増加しています。

そんなGグループでは、毎日頑張る彼らの慰労の場、そして利用者同士が集う場として利用者交流会を開催しています。

第一回目として試行的に行った交流会は、第二やまびこ工場内の一室で喫茶やゲームを行う形で実施。その場での利用者同士の交流はもちろん、開催後の利用者にはいい変化が多くあり、今年度は2か月に1回のペースで実施することになりました。

そこで、今回は第二回目となった「よこはま動物園ズーラシア」への外出を少しご報告したいと思います。(ズーラシアは、1回目の交流会の雑談の中で生まれた利用者さんからのリクエストでした。)

当日はあいにくの天候で冷たい雨となりましたが、その悪天候に動揺しているのは支援員ばかり。参加者お二人は、雨が打ちつける行きの車内でも会話が盛り上がり、動物園内でも足取り軽く、意気揚々と散策していました。

昼食では「工房で外出したのは初めてです！」と嬉しそうに話す方もいらっしや、思わずみんなで乾杯！

相手を思ってそっと足を止めて待つ姿、ごく自然に家族や仲間にお土産を買う姿、利用者同士が「ありがとう」と伝え合う姿等、日頃の「仕事」の中では見ることのできない彼らの姿を数多く見ることが出来ました。

そして外出に参加されなかった方の中には「皆さん気をつけて行ってくださいね」と暖かい言葉をかけてくださる方がいました。

今まで支援員が抱いていた「他者と接することを好まない」という彼らの印象は、ただの偏見であったと利用者交流会を企画するたびに痛感します。

日々の「お仕事」は引き続き頑張りながら、「利用者同士が集う場」として今後も様々な企画で交流会を実施していきたいと思います。

彼らの心身の充足につながることを願って。 (湯本)



外出のお知らせやしおり。より理解を深めてもらえるよう、一人一人の特性に合わせて興味を持ってそうな内容や理解しやすい文章に変えて配布しています。

初めての外出に…
かんぱ〜い！！



大好きな化石のオブジェの前で決めポーズ☆

説明書は一つ一つしっかり読み、内容を支援員に教えてくれます。

こんないい表情が見られるのも外出ならではの。普段はわからない利用者さんの嗜好も垣間見ることが出来ます。



ヘルパー便り



昨年12月、Aさんと平日に電車とバスを利用し下九沢にある湯楽の里に行きました。Aさんは学生時代に学校の行事等で外出された経験はありますが、ガイドヘルプを利用しての活動は初めてのことでした。まずはガイドヘルプに慣れていただくことを目的として、Aさんが経験したことのある活動から内容を決めました。Aさんは小さい子どもや犬、予期せぬ大きな音等に不安を感じることがあります。また、公共の交通機関を利用するのが久しぶりであったため、周囲の状況には一層の配慮が必要と考えました。季節ごとのイベントやご自身の予定等、先々のことにも敏感な部分があるため、Aさんに分かりやすい形で予定を伝えることも課題の一つでした。予定表にイラストや写真を用いてイメージをやすく、ご自身の中で心の準備ができるよう努めました。

実際に活動を行ってみると、行きの移動の際には若干の緊張感があったためか周囲の様子に関しては、あまり気にされていないようでした。お風呂ではいつも自宅で入っているようにゆっくりとご自身のペースで身体を洗っていましたが、浴槽に入っていた時間は1~2分ほどですぐに上がっています。他に利用されている方と同じ湯に入っていたくなかったのか…。入浴を終えると楽しみにされていた食事の時間です。前から決めていたメニューを注文し、満足そうに召し上がっていたのが印象的でした。帰りの道中では行きのような緊張感はなく、どこか達成感を感じていられるようにも思いました。

今回のガイヘルを通して普段はあまり感じることでできないような新鮮な気持ちになっていたのではないかと思います。それ以降も、定期的にガイヘルに行っており、5月からは休日のガイヘルにも取り組んでいます。今後もAさんがガイヘルを楽しみとして活動できるように、また、新鮮な経験の場を提供できるようコーディネートしていきたいと思っております。

(大塚)

ナウシカ便り

～味の好みは、人それぞれ～

現在ナウシカでは、利用者さんの意思確認の場面を増やすことを意識しながら、出来るだけ意思確認を行う支援に取り組んでいます。

特に食事の際には、好みや希望を確認する場面が多く、なるべく細かくお聞きするようにしています。たとえば、調味料は何をかけるか、ごはんとパン、どちらが良いか、飲み物を冷たいものにするか、温かいものにするか等を確認しています。これまで召し上がらなかったものも含め、完食率が上がっており、ご家族との食事の際にも召し上がるものが増えていて驚かれることがあり、今の取り組みの成果ではないかと嬉しく思っています。

聞き取りの中で気をつけているのは、こちらの希望に誘導しないことです。うっかりすると「～には当然醤油だよな」という気持ちが「えっ、これにマヨネーズですか？」と声に出てしまったりすることがあります。すると、まるで間違った選択をしたかのような印象にもつながってしまいます。

先日、アジフライにマヨネーズを希望された時には「え！？」を飲み込みながら配膳を行いました。逆に感心させられる選択もあり、天ぷらに「塩」と言われた時は思わず「さすがです」と言ってしまいました。

(野田)

後援会のページ

後援会の皆様には日頃より社会福祉法人「風の谷」をご支援いただき誠に有り難うございます。

本年7月にはやまびこ工房開設20周年を迎えます。これまでの間第2工房やグループホームなども開設され、さらに2件目のグループホームもまもなくオープンします。この様に法人が充実したのは後援会を始めとする関係の皆様のご尽力の賜と感謝申し上げます。今後も一層の充実が図れます様ご支援の程お願い申し上げます。法人がハード・ソフト両面で充実していればこそ、安心して子供達を送り出すことができます。

また6月3日には後援会主催の地域交流バザーをやまびこ工房で盛況の内に開催することができました。ご協力いただいた家族会や工房職員の方々、また地域のボランティアの方々に御礼申し上げます。

今年の冬はとても寒く、また春を迎えてから寒暖の差が激しくて高齢者には特に体に厳しい日々が続いています。また梅雨入りも例年より早く、夏は酷暑になるとの予報もあり、皆様には体調管理にご留意上お過ごし下さい。

後援会長 堀田脩二

平成29年12月1日～平成30年4月30日現在（五十音順敬称略）

【新規個人】

(相模原市) 渋谷安恵 早川知恵

【更新個人】

(相模原市) 安藤美由紀 石崎守 井上響子 大久保敬二 大庭順子 川島和章 工藤真弓 斎藤真澄
篠崎繁雄 清水徹 菅照雄 高橋ユキ江 竹内英次 田中三郎 津田秀隆 都築尚一 豊田幸男
中村成美 野口和代 野崎廣子 古澤倫子 辺見祐二 堀田脩司 政野大 政野光廣 村田薫
百田紀久男 森合貞雄 柳場秀雄 山崎テル代 吉澤孝雄 吉田さやか

(厚木市) 山井京子 (川崎市) 上野悟 (座間市) 大澤宏二 上城洋一 崎広紀子 (秦野市) 大久保禎
(横須賀市) 浅羽昭子 (横浜市) 青山恵子 石渡和実 大久保秀俊 鷺谷廣道 内藤美也子
(世田谷区) 済田安司 (国分寺市) 岩崎秀二 (上田市) 合津紀子 (堺市) 守屋恵美子

【更新団体】

相模原やまびこ会 創デザイン工房

【ご寄付・ご協力】

安藤美由紀 カクトシエ 木下謙三 藤野孝夫 宮田勇 新宿自治会 新宿小学校 ドウ・シルフィード
田名地区社協ボランティアセンター (有) 伸和トラスト ワーカーズキュービック相模原
その他たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345